（東京發電）

感々眞物の和解成立

花柳界の紛擾

例の紛擾後の花柳界紛擾問題に就き過日來調停者一色警視總監、兵四郎氏は兩派の幹部を小會議に呼出し鋭意に努めた結果、昨日午後四時より感々眞物の和解成立し目出度手打式を行つたが三業組合は本日總會を開いて報告する筈である、而して一般藝妓の取引開始は明日頃から

門札を外して

工場主姿を隱す

旭工作所の珍爭議

旭工作所は未曾有のがその優越年し五日は仕事始めなので職工達は作業服で出勤し來たが、無斷で工場閉鎖をやつてゐるのでその儘正月だからと歸宅した、翌日も翌々日も出勤したが同樣で八日は朝一同出勤するも突然所長松永由之助氏は一同に對して九日から

工場を

廢止するこ告げたので職工達は驚き、失業の憂目に悲觀して工場主と解雇手當の交渉を開始した所、約五十圓ばかりの涙金で示談にしようとした、之に對し日本勞働總同盟に加入してゐる職工達は斷然起つて十日午後五時頃總員、江成町の前工場主松永方へ押しかけ民法六百六十七條による豫告手當十四日分及五日間の勞務損害賠償として六百二十圓の要求書を突付けた、するこ松永氏は六時までに金を調達するから

待つて

くれこ云ひ捨てたまゝ自分の家の門札を外して置いて姿を消し十一日の今に至るも顏を出さない、所で職工達は十日午後十一時頃まで待つたが工場主は歸宅しないので遂に附近より料理や酒を取寄せ同家の奥の間に詰め込み酒を酌んで夜更けまで待つたが主人が歸宅せぬので主婦の好意により約二十五名はその家に泊つた十一日朝は又工場主の家で酒を呑んでゐるが未だ解決がつかず福島署員が仲裁の勞をとつてゐる、近頃珍らしい爭議である

大井勞組合

計畫者

檢擧さ一揉

大井工場職工で東京鐵工組合の創立を企畫中であつた田中外三名は實は昨十一日夕解雇を申渡されたので該工組今大井支部では其理由なき解雇に對し工場長に訊すべく寄々協議中右に就き山下工場長は「理由は言はぬ方がいゝ、兎に角理由は從來時々解雇したと同樣の理由と認められて間違ない、組合運動を起したから解雇する抔と云ふ事は浮說だ」と語つた

四百名の女工罷業

愛知織物騷ぐ

名古屋市東區泉町愛知織物株式會社は去る四日より新部主任に名取嘱一氏を據ゑ盛んに能率增進の

美名

の下に職工等を酷使するので日頃職工等に温情厚き丹羽職工長が九日細野支配人を通じて名取氏の更迭方を願ひたる所支配人は理由なしとて拒絶したので同氏外十四名の監督は十日連袂

辭表を

提出したので新織部綜紡部女工約四百名はこれに共鳴して十日午後二時突然作業を中止して場外に出で不穩の形勢を示した尚ほ同綜紡部女工は十一日より一週間夜業に過る事になつてゐたが十一日夜も出勤せず引續き罷業狀態なりと

（名古屋電話）

東洋マッチ

尚罷業

其總數一千八百餘名

神戸東洋マッチ會社職工が賃銀値上の要求を提出したるも拒絶され、續中の者は解雇の如くなるが、荒田工場、其他同工場所屬の一千八百餘名は、十三日午後に至り遂に同盟罷業を決行すること至つた（神戸電話）

青筒汽船の船夫

二千名遂に罷業

三百名が賃金二割値上げを要求

交渉不調で荷役中止

紛擾を

來したが新春横濱港に出入する內外汽船の貨物を運搬する解船人夫二千名は賃金値上を要求し屢

プリューファンネルきせん

及び英國リバープールに本社を有する青筒汽船會社所有のライター號乘組船夫三百名は一歩調で物價騰貴を口實に賃金二割以上の

値上を

要求し會社が容れなければ同盟罷業をする旨を申込んだ、之に對しホルム商會は九日二割の要求に對し一割五分に目下代表者と交渉中であるが青筒汽船會社はこれが即答を與へぬので十日午後より

二十隻

に乘組める六百餘名の船夫は荷役を中止し解船を棄てゝ上陸したが橫濱港內二千名の船夫にも波及する恐れがある（橫濱電話）

早々ホルム兄弟商會、四十番のオルストン商會所屬汽船の船夫

神戸の各燐寸會社

職工六千の罷業

賃銀値上を拒絶されて

會社側も態度强硬

十二日朝神戸燐寸會社職工六千餘名は賃銀値上嘆願書を提出したが會社側が拒絶したので十三日朝中道、荒田、下澤、正覺寺、兩口、塚本の各工場の三千の職工は遂に同盟罷業し午後に至り雲井、松原、二宮三工場の職工も加盟した爲めそ六千名の總罷業となつた尚ほ同夜湊川公園上の關西勞

神戸でも

又爭議

神戸

市外グレンロング、ゴム會社の職工二千五百餘名は、昨年の爭議に依つて勝ち得たる工場委員制度の內容が、頗る增進の解釋に相違の廉あるを以て、今回委員を選擧して十二日

總罷

職をなさしめたが、會社側は一月中、工場整理を名として職工の一部分を解雇する筈で、職工は目下不安の日を送つて居る、又東洋マッチ會社職工三百餘名は、昨年

東洋燐寸

工場閉鎖

職工値上要求から

東洋第一の燐寸會社たる神戸の東洋燐寸各工場機械工全部は會社が職工の要求を拒絶して居たが十二日遂に會社側に對し各種要求を記した嘆願書を提出し十三日午前八時を以て回答期とした、一方機械工の民押しか同會社の軸列べ工（殆ど女工）も日本燐寸と同率の賃銀に增額せよと要求すべき形勢が見えたので會社では十三日午前八時一齊に各工場を閉鎖した右に對し職工側は關西勞働組合の應援の下に爭議事務所を新設し引續き對峙を續けて居る